

社会部会 研究の構想（案）

平成 25 年度～

I 研究主題

社会的事象を広い視野に立ち、主体的に追究する生徒を育てるにはどのようにすればよいか。

II 主題設定の趣旨

現代の社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」であると言われる。このような社会では、グローバル化が一層進み、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が重要になるとともに、社会形成に参画することが必要とされる。そこで、社会科においては、広い視野に立って世界や日本に関する基礎的教養を培い、持続可能な社会の担い手として主体的に社会に参画していく能力や資質を育成することが求められている。

そのためには、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得に努めるとともに、それらを活用したり、主体的に課題を探究したりするための思考力・判断力・表現力等を身に付ける必要がある。このような観点から、習得すべき知識、概念や技能の明確化を図るとともに、指導と評価の一体化に配慮した指導過程と評価方法、思考力・判断力・表現力等を育てる教材の開発・構成や作業的・体験的な学習について工夫・改善を図っていく。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

- (1) 小学校社会科の学習と、地理的分野、歴史的分野、公民的分野相互の有機的な関連を踏まえながら、知識、概念や技能の習得と活用を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識、概念や技能を明確にし、評価問題等を工夫・改善することで、指導と評価の一体化を図り、指導改善に生かす。
- (3) 多様な学習活動の工夫と言語活動の充実により、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成し、社会的な見方や考え方を養う。

2 研究内容

- (1) 小学校社会科の学習との関連を図るとともに、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野と歴史的分野の学習の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという教科の基本的な構造と相互補完の関係を踏まえ、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元全体の学習課題や基礎的・基本的な知識、概念や技能を明確にし、構造的な指導計画を作成するとともに、授業での学習内容に則した評価問題等の工夫・改善を図り、指導と評価の一体化の在り方を工夫する。
- (3) 社会の変化に対応し主体的に学ぶ能力や態度を育成するため、課題を設けて追究する学習に積極的に取り組む。課題追究に必要な資料を適切に選択して活用する学習活動や、複数の資料を関連付けたりそれらの資料に基づいて考えたりする学習について工夫・改善を図る。
- (4) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考力・判断力・表現力等を育てる教材の開発・構成に努めるとともに、問題解決的な学習や作業的・体験的な学習の充実を図る。意味、意義を解釈する学習、事象の特色や因果関係を説明する学習、根拠をもって自分の考えを論述する学習等を通して、社会的な見方や考え方を養う。

社会部会 平成 26 年度研究計画（案）

I 研究主題

社会的事象を広い視野に立ち、主体的に追究する生徒を育てるにはどのようにすればよいか。
— 基礎的・基本的な知識、概念や技能を明確にし、指導と評価が一体となった指導過程や評価方法はどうか —
— 思考力・判断力・表現力等を育てる教材の開発とその構成はどうか —

II 主題について

東日本大震災は、未曾有の被害と多方面に及ぶ大きな影響を日本全体にもたらし、復興に向けても様々な問題を抱えている。また、社会のグローバル化や情報化が急速に進む中で、次々と新たな問題が生じている。社会科においては、このような変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、社会的事象を広い視野に立ち、主体的に追究する生徒の育成が一層求められる。そのためには基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育み、主体的に社会に参画していく態度を養うことが大切である。

本年度は、これまでの研究成果を踏まえ、基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させ、これらを活用したり、課題を探究したりすることに重点を置き、生徒が主体的に社会的事象を捉え追究するような取組を目指す。そのために、習得すべき知識、概念や技能を明確にし、指導と評価の一体化に配慮した指導過程と評価方法の工夫・改善を図っていききたい。その際、単元全体だけでなく1時間の授業の指導計画を構造化するとともに、学習内容に則した評価方法を工夫・改善することを重視する。また、思考力・判断力・表現力等を育むため、教材の開発・構成や作業的・体験的な学習について研究を深め、主題の解明に迫りたい。

III 研究内容とその視点

1 研究内容

- (1) 小学校社会科の学習との関連を図るとともに、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野と歴史的分野の学習の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという教科の基本的な構造と相互補完の関係を踏まえ、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元全体だけでなく、1時間の授業の学習課題や基礎的・基本的な知識、概念や技能を明確にし、構造的な指導計画（知識、概念の構造図等）を作成する。また、授業での学習内容に則した評価問題等の工夫・改善を図り、指導と評価の一体化の在り方を工夫する。
- (3) 社会の変化に対応し主体的に学ぶ能力や態度を育成するため、課題を設けて追究する学習に積極的に取り組む。課題追究に必要な資料を適切に収集、選択、処理、活用し、複数の資料を関連付けたり、それらの資料に基づいて考えたりする学習の在り方について、工夫・改善を図る。
- (4) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考力・判断力・表現力等を育てる教材の開発・構成に努めるとともに、問題解決的な学習や作業的・体験的な学習の充実を図る。意味、意義を解釈する学習、事象の特色や因果関係を説明する学習、根拠をもって自分の考えを論述する学習等を通して、社会的な見方や考え方を養う。

2 研究の視点

- (1) 小学校社会科の学習内容を踏まえ、中学校地理・歴史・公民の三分野相互のつながりを意識して、基礎的・基本的な知識、概念や技能を明確にした構造的な指導計画を作成する。
- (2) 授業計画の立案と同時に、授業で付けたい力を評価する問題等を作成し、その分析結果を

指導に生かすことで、指導と評価の一体化を図る。

- (3) 比較、関連付けることのできる複数の資料に基づいて、考える学習活動を重視する。
- (4) 多様な学習活動を取り入れながら、多面的・多角的な見方や考え方ができる教材の開発やその構成について工夫・改善を図る。

3 各分野における留意点

<地理的分野>

地理的事象に対する関心を高め、地理的な見方や考え方の基礎を培うとともに、世界と日本の諸地域の地域的特色について学ぶ地誌的な学習を充実させて、世界と日本の地理的認識を養う。

指導に際しては、世界と日本の地域構成の基本的な枠組みに関する基礎的な知識や、球面上の位置関係等を捉える技能を確実に身に付けるように、指導計画や評価方法を工夫・改善することを重視する。

教材の開発とその構成に当たっては、地図を有効に活用して事象を説明する学習活動や、社会的事象に自分の解釈を加えて説明や論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させる。また、身近な地域の調査においては、野外での観察や調査等の活動を行い、地域的特色や地域の課題を見いだすことで、主体的に地域社会の形成に参画してその発展に努力しようとする態度を養う。

<歴史的分野>

歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解し、我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えるとともに、資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する能力と態度を育てる。

生徒が主体的に追究できる教材構成や指導過程の工夫・改善に当たっては、学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動や、時代の転換に関わる歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成することを重視する。さらに、歴史的事象の意味、意義や特色、事象間の関連を説明する、課題を設けて追究する、意見交換するなどの学習活動を指導過程に位置付け、思考力・判断力・表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図る。

また、郷土の施設を活用したり、身近な歴史上の人物や文化遺産を取り上げたりするなどして、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を学ぶことができる教材の開発に努める。

<公民的分野>

現代の社会的事象に対する関心を高め、地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用し、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり及び現代の社会生活等について理解を深める。その際、現代社会についての見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正等について理解させる。

生徒が主体的に追究できる教材構成や指導過程の工夫・改善に当たっては、新聞等の様々な情報手段から得た資料を積極的に活用する活動を取り入れる。その際、習得した知識、概念や技能を活用して諸事象の意義を解釈し、事象間の関連を説明することや自分の考えをまとめて論述し、議論等を通して互いの考えを深めることを重視する。

また、社会的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、社会的な課題の探究を通して社会の形成に参画しようとする態度を養う。

IV 研究方法

- 1 実践に当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえて、各郡市・地区の実情に応じて本年度の副主題から一つを選択し、上記の研究内容とその視点を基に研究に取り組む。
- 2 各郡市・地区ごとに、授業を進める上での悩みや課題について、実践事例を通して共同研究を行うことにより、主題の解明を図る。その際、学習指導要領において新たに加わった内容や大幅に改訂された内容の研究を重点的に進める。
- 3 「学力調査」の結果から、S-P表等を活用して生徒の実態を十分に分析し、主題の解明に生かす。

